



### これからの地域活動にむけて



あびこ市民活動ネットワーク 代表 関口 隆彦

新型コロナウイルス感染症が猛威を奮っておりましたが、9月に入り少し落ち着いてまいりました。地域の催事も少しずつ再開されてきています。

しかし、高齢者が比較的中心となって活動している地域活動では、コロナ禍をきっかけに中心となる人物の離脱や後継者の育成ができず、活動の継続が困難な状況になっている団体もみられます。

地域活動がコロナにより長期間休止や規模も縮小せざるを得なかったことで、「地域のつながり」の希薄化が心配されます。地域の防犯や防災、高齢者および子どもの見守りは「地域のつながり」が不可欠です。それには、我孫子市の地域活動が活性化することが必須条件です。今までの人たちのつなが

りを、いま一度太くしていくこと、そして、今までの形式にとらわれない、新たなつながりやつながり方の拡充に向けて、あびこ市民活動ネットワークは模索していきます。

ウィズコロナ・アフターコロナにおける地域活動においては、まだ課題が表面的にしか見えていないように私は感じています。担い手の不足など、従来からの課題についてはもちろんですが、まだ見えていない課題を顕在化させるところから、行政と市民が一体となって進めていければと。我孫子市の地域活動がより発展し、地域課題が解消していくよう、あびこ市民活動ネットワークは何をするべきなのか検討していきたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## 「第 6 次我孫子市地域福祉活動計画」の改廃



我孫子市社会福祉協議会 事務局長 横田 光夫

社会福祉法人我孫子市社会福祉協議会（社協）では、令和 4 年度からの 5 カ年計画である「第 6 次我孫子市地域福祉活動計画」がスタートしています。この計画は、5 年サイクルで、改めて地域課題・生活課題を調査・確認し、住民による地域福祉活動や社協事業の方向性を決めています。

今回の計画では、大きな事業の改廃が実施されます。

介護保険事業  
障がい者福祉事業

廃止



あびこ後見支援センター  
日常生活自立支援事業  
寄付・リユースバンク事業

拡大

社協では平成 7 年度より、介護保険事業と障がい者福祉事業のホームヘルプサービスを提供してきましたが、その 2 本柱の事業を廃止し、安心して地域で暮らせるためのサービスである成年後見や日常の金銭管理を拡大していきます。また、困窮世帯の増加を受け、寄付・寄付物品事業（フードバンクや制服バンク等）のメニューを充実させていきます。

さらに、心、体、お金の事など多様な困り事が重複している人や世帯が増えていると感じています。「つながり」や「助け合い」などの住民活動の支援はもとより、行政では事業化が難しいサービス、民間企業では採算が合わないサービスをこれからも社協で担っていきたくと考えています。

#### < も く じ >

- 1P あびこ市民活動ネットワーク代表挨拶／我孫子市社会福祉協議会
- 2P 市民の子カラまつり2022実施報告／我孫子 SL ホランティアネットワーク
- 3P 参加団体報告／未来キッズ☆バトン・スマイルママ・Flower Pep／我孫子革新懇
- 4P 活動報告：市民活動支援指針グループ地域共生社会グループ

- 5P 会員報告：子ども応援団 Part6 講演会
- 6P 会員の活動あれこれ：我孫子の文化を守る会
- 7P ACNW 役員会報告／事務局から
- 8P みんなの掲示版：緑のカーテンコンテスト／SKS から／編集後記

# 市民のチカラまつり 2022 企画部門

市民のチカラまつり 2022 企画部門が 9 月 25 日（日）にけやきプラザで開催され、あびこ市民活動ネットワークでは、企画部門の運営に携わりました。①我孫子の歴史遺産を知る②地域課題を解消するための検討③子ども応援団の 3 つを企画の柱として、参加団体を募集し 6 月 10 日に団体説明会を開催し、6 団体が参加されました。企画団体の募集から当日に向けた実行委員を一任されての運営は初めてだったことに加え、開催期間中は台風が接近するなどの心配がありました。無事終わることが出来ました（※2023 年 2 月 4 日に開催する企画が 1 つ残っています）。

10 月 7 日に企画部門の実施報告会を開催し、参加団体とあびこ市民活動ネットワークで今後に向けての意見交換をしました。市民のチカラまつりに今年度

初めて参加した団体も多く、それぞれの団体がこれからの活動に活かせるヒントを得られたようです。あびこ市民活動ネットワークとしても、新しい方々とのつながりや取り組みがふえたことは、とても大きな成果でした。

一方で、集客向け PR 活動（チラシや広報について）、主催者間の情報共有や擦り合わせ、企画団体への当日までの伴走などに足りない点が見受けられました。参加する団体、来場者、我孫子のまちにとって、市民のチカラまつりがより良いものとなるにはどのような改善が必要なのか。これからしっかりと振り返りをしていきたいと思えます。

（担当幹事 関口隆彦）

## ♪\*♪\*♪企画部門参加団体実施報告♪\*♪\*♪

### 【地域課題部門】

#### ■我孫子 SL 災害ボランティアネットワーク 映画上映とパネルディスカッション

日時：9 月 25 日（日）13：00～16：00 けやきホール

ドキュメンタリー映画：「石巻市立湊小学校避難所」

パネリスト：高野山小学校長、我孫子市職員（東日本大震災に派遣）、松園自治会自主防災会、川村学園女子大学生、布佐地区社会福祉協議会

参加：65 名（大人 64 名 子ども 1 名）

概要と反省：映画を見ての感想を、それぞれ仕事と関係の深いパネリスト 5 人に話していただいた。参加者アンケートでは、映画の上映によって「災害に備え、できることを考えたい」「知識を広めたい」など参加者の気持ちに変化があり、この映画をもっと多くの人に見てもらいたいという意見が多かった。周知方法については今後の検討課題。ホールの備品について予想外の金銭的負担がかかったのは情報不足だったと思う。



### ※【文化遺産部門】

■我孫子の文化を守る会 講演会は、2023 年 2 月 4 日（土）近隣センターふさの風で行われます。

内容：我孫子周辺に残る平将門伝説・伝承を探り、後日関連の史跡を訪ねる。

詳しくは会報 64 号（1 月 15 日発行）でお知らせします。

## 【子ども応援団部門】

### ■未来キッズ☆バトン

講演会「今日からみんなでアンガーマネジメント！」

8月14日（日）13：30～16：00 第一会議室

講師：丸山尚史 アンガーマネジメントファシリテーター

参加：小学生30名 中学生24名

概要と反省点：キッズ・ティーン向けのアンガーマネジメント講座を開催。最終的なゴールは、怒るときのルール3つを自分で言えるようになること、怒ったならばどのような行動をとればよいのかを学びました。

子どもだけではなく、保護者の方に対するアンガーマネジメント講座も必要だと感じた。



### ■スマイルママ

親子関係が楽になるコミュニケーション講座

9月25日（日）10：00～11：30 第1会議室

講師：市川ちづ 子育てインストラクター&ベビーサインマスター講師

参加：21名（おとな19名 こども2名）

概要と反省点：説明資料だけでなく、ワークシートも用意したほうがよかった。参加者は保護者が90%以上。今までの子育てのズレや違和感の正体を感じられている方が多く、それぞれに楽しんでいらっしやったようだ。アンケートも高評価で、今後の活動に自信ができた。



### ■Flower Pep

やる気を引き出す魔法の言葉 PEP TALK！

9月25日（日）12：45～16：00 第1会議室

講師：西山崇子 一般財団法人日本ペップトーク普及協会認定講師

参加：26名（おとな25名 子ども1名）

概要と反省点：初めての企画だったが、チラシ、ポスター、フェイスブックなどで告知し、参加者を集めることができた。参加者には男性も祖母もいて、イベントは終始和やかな雰囲気だった。人として大切なこと、子育ての原点を思い出せたというご感想もあり、最初の一步として成功だった。今回の経験をこれからの活動に生かしたい。市民のチカラに参加させていただき勉強になった。感謝している。



### ■我孫子革新懇

講演会 「我孫子の教育を考えてみる」

9月30日（金）14：00～16：15 南近隣センターホール

講師：三輪定宣 千葉大学名誉教授

参加：35名

概要と反省：参加者は現役や元教師が多かった。講師は我孫子市の状況を把握されたうえで話していただいた。講演後の質問などについても丁寧にお答えいただき、参加者と我孫子の教育について双方向の意見交換が出来た。講師と参加者が一体となった討論で次回でも参考にしたい。



## 活動報告

### ■市民活動支援指針グループ

令和3年4月から市民活動を進めていく上での指針となる「我孫子市市民公益活動支援指針」が改訂され、現在、指針に則って事業が見直されたり、進められたりしています。推進施策6項目のひとつに市民活動団体の運営基盤強化に向けた支援が掲げられております。8月23日に開催された我孫子市補助金等検討委員会委員の意見を踏まえ市民活動団体への財政的支援として行われている公募による補助金制度の継続及び枠組み変更の検討に着手すると担当課から伺いました。

公募補助金については①新規申請が減少している②3年を超えて継続的に交付している団体もある③必要なサービスだがこのまま行政が負担し続けるのが妥当なのか④審査判定基準の見直しが必要になっているのではないかと⑤事業年度が終わったときの報告の在り方の検討も必要等あびこ市民活動ネット

### ■地域共生社会グループ

地域共生社会グループでは、2021年1月に高齢者家庭の庭や家の手入れを応援する市民共助活動の実態などを語り合うことを目的に、「高齢者の“手”助けサミット」を開催。官民12団体が参加し、各会の現状や課題などを話し合いました。その中で、メンバーの高齢化や担い手不足で、利用者の要望に十分応えられない現状や、伐採した庭木が月2回しかクリーンセンターに持ち込み出来ず、とても不便であることなどが課題となりました。コロナ禍が続き、第2回目のサミットはいまだ開催できない現状ですが、ごみ屋敷の片付け、剪定の依頼等は増える一方



### ★公募補助金について担当課との意見交換会★

開催日時 11月14日(月) 午後1時30分～3時  
場所 けやきプラザ 8階 第1会議室  
出席者 小池課長 飯塚課長補佐



ご参加いただける場合は事務局  
acnw.jimukyoku@gmail.com  
までご一報ください。

ワーク役員3名と小池課長・飯塚課長補佐と10月4日に意見交換をしました。今の我孫子市公募補助金申請の手引きでは、団体設立3年目にしか補助金が取得できないために新規団体の設立補助にはなっていない状況です。地域活動の活性化のため公募補助金制度は大きな影響を与えます。より良い制度づくりのために会員の皆さんとの意見交換会を上記の日程で行います。奮ってご参加ください。

(担当幹事 宇野眞理子)

で、庭木ごみが70袋も出たケースでは、いったんごみ置き場を確保し、回収日に再度ごみ出しを行ったそうで、ニーズに対して支援が追いつけず、さらに負荷が高まっている現状です。そこでクリーンセンターに伺い、回収したごみや庭木の持ち込みについて、特例措置を設けてもらえないか相談しました。令和5年4月から新規稼働する新センターでは、落ち葉や雑草が可燃ごみとなり、持ち込みに対しても考慮いただけるとのことでしたが、それまでの半年はせめて特別枠を設け、各市民団体が疲弊しないように配慮をお願いしました。クリーンセンターからは10月中に回答をくださるとのこと。一歩前に進み、支援されている団体の負荷が減ることを期待したいと思います。(担当幹事 小田麻子)



## 好き〔ゲーム〕から未来が見える 一若者の経験値を上げるサンカクシャの場づくりー

特定非営利活動法人みんなの広場「風」栗原祐子



9月25日(日)に、生きづらさからの大脱出Part6を開催しました。このシリーズでは、生きづらさを抱えた子どもや若者達の支援を目的に、当事者の発信と、当事者を支える活動や機関のつながりづくりを中心に据えて、講演やシンポジウムを行なってきました。

6回目になる今回は、都内で、学校や社会になじめない若者が社会で生きていくための経験を獲得できるよう、居場所の提供や生活、就職の支援を行なっている NPO 法人サンカクシャ代表荒井さんを迎え、第1部は荒井さんの活動報告、第2部は、荒井さんの話を深めると共に我孫子の子どもや若者の今とこれからのためのパネルディスカッションを行いました。37歳の若さで、次々と現れる目の前の課題を、いろいろな人達の力を借りながら解決努力してきた荒井さんのお話はとても興味深く、目から鱗のエピソードに満ちていました。

終了後に、参加者からは「学校へ行かずにゲームに没頭する我が子のやっているゲームを自分も練習したら、その魅力がわかると共に子どもの気持ちにも寄り添えて、一緒に出かけたりできるようになった。あのままゲームを否定ばかりしていたら大事な物を失っていたかも知れない。」「支援者側が支援してあげるという視点では本当の若者が求めるものはわからないことを実感しました。反省でした。」「ゲームに悪いイメージがありすぎですね。」「今日のお話をきいて、自分も子どもに歩み寄りたと思いました。子どもの

好きなことを沢山見つけて、(豊かな不登校生活という言葉がひびきました) 応援したいなと思いました。」という様々な言葉が寄せられました。

「目の前で悩む若者のリアルに寄り添うために2800時間のゲームをして自分の感覚を磨いた」という、荒井さんの当事者に対する姿勢に、数々の現場で失ってしまっているかも知れない何かを感じました。

詳しい内容は市民活動ステーションのHPで報告します。

今回は市民のチカラまつりと ACNW 共催で行われました。支援する側の連携づくりや、連携を活かしたそれぞれの活動の向上を模索しつつ6目を迎え、様々な課題が表面化してきました。原点を見失わず、時流も読みながら、我孫子の子どもや若者を応援する人々がつながる有意義な企画ができたと思います。

参加者：60名

内容：第1部「サンカクシャの成り立ちとその活動」荒井佑介さん(NPO法人サンカクシャ代表)

第2部 パネルディスカッション

コーディネーター：関口隆彦さん(障害者支援 多機能型事業所 エール我孫子)

パネリスト：遠藤美香さん(我孫子市教育相談センター所長) 鈴木将人さん(我孫子市子ども相談課長) 荒井佑介さん

主催：子ども応援団事業実行委員会・あびこ市民活動ステーション・あびこ市民活動ネットワーク



## 倉岡裕之氏が 我孫子の文化を守る会で 講演



我孫子の文化を守る会会長 美崎大洋

エベレストを筆頭に、世界 7 大陸の最高峰を山岳ガイドとして登頂し、山岳業界では「世界のクラオカ」として知らない人はいない倉岡裕之氏が我孫子の文化を守る会で講演した。私の知る限り市内の関係団体での講演は今回が初である。倉岡氏の職業は「山岳ガイド」。すなわち極寒、強風、吹雪など、常に死と隣り合わせの極限の世界で挑戦するクライマーを如何に安全に登頂させるかが仕事。今まで冷静かつ的確な判断で数多の登頂をサポートしてきて、一度の事故もない。



この有名な倉岡氏が我孫子在住であることを知る人も少なかったし、私自身も知らなかった。実は当会の役員の子供が倉岡家のお子さんと保育園が一緒に、母親同士がいわゆる「ママ友」だったことから今回の講演会が実現したのだ。

講演では数多くの写真の映写とともに今までの輝かしい実績や危険な仕事の内容を淡々とした口調で語った。

倉岡氏の登頂実績を見てみよう。

21 歳の時に、初めて「ヒマラヤ」に行き、ヒマラヤという山を知る。23 歳（1984 年）の時、テレビ局企画で落差 1,000m 近い「エンジェル・フォール（南米ベネズエラ）」に挑戦。世界で初めて巨大な落差を誇る滝の登攀に成功した。この様子は東京 12 チャンネルで放映された。翌年は、登山家・冒険家で、前年に冬季のマッキンリー単独登頂後、遭難し亡くなられた植村直己さんの追悼映画「植村直己物語」の制作のプロジェクトチームに参加、半年にも及ぶ映画製作に携わった。

2004 年「エベレスト（北稜）8,848 m」に初登頂。続いて 2007 年にもガイドとして登頂（北稜）し、以降 2009、2010、2011、2013 の各年（南東稜）、2016、2017、2018 年（北稜）とガイドとして登頂（通算 9 回）に成功する。これは日本人最多の記録である。



このうち 2010 年は、我孫子市市制 40 周年の記念フラッグを掲げて登頂した。（写真）



2013 年は三浦雄一郎さんの「エベレスト挑戦プロジェクト」に参加、三浦さんは 80 歳（最高齢記録を更新）だった。

高地は地上とは異なり、8,000m 級の山では、気圧は下がり、酸素量も地上の三分の一に低下し、気温もマイナス 30℃ 以下にもなる。沸点も 80℃ まで下がるので調理も大変だ。脳の機能も思考力が失われ、一つのことをこなすに大変になるそうだ。「山岳ガイド」という仕事は、「安全第一」は当然だが、常に「トレーニング」が欠かせない。自分自身の日常のトレーニングは勿論、案内する人に対して低い山から高い山へ徐々に馴らすトレーニングも必須だ。

倉岡氏は「山岳ガイドは常に新しい喜びと感激を体感する素晴らしい仕事だ」と言った。

（講演の詳しい内容については我孫子の文化を守る会ホームページをご覧ください。）

<http://abikonobunka.sakura.ne.jp/>



## ■7月度役員会 7月14日(木) Zoom会議の併用

各事業からの報告

- ・市民活動支援指針グループ  
市民活動の補助金の見直しが必要、補助金頼りで活動している団体が結構多い。
- ・地域共生社会グループ  
地域共生社会について ACNW としてどう考えていくのか  
という話し合い、提案をしていく必要がある。
- ・子ども応援団グループ  
市民のチカラまつり 2022 の子ども応援団事業のシンポジウムについて企画内容の報告。
- ・チームつながり  
市民のチカラまつり企画部門の経過報告。

## ■8月度役員会 8月4日(木) Zoom会議の併用

各事業からの報告

- ・市民活動支援指針グループ  
8月の補助金等検討委員会の結果が出ないと進捗しない
- ・地域共生社会グループ  
前回の役員会以降、動きはない。議事録を共有する。ささえあい会議だけでなく、ネットワークでも動いていく必要がある。  
目的を明確にしないと団体が集まってこない。
- ・子ども応援団グループ  
9月25日のイベントに向けて動いている。

若者の支援についてお聞きし、繋がりにくい若者と  
どういう接点で繋がっていくのか、ゲームについて  
理解をしてもらえるようなお話をしてもらいたい。

- ・チーム繋がり  
ネットワーク企画であるおくやみ企画は今年度中に開催。  
8月～9月に行政でワンストップ化するために動いている。

## ■9月度役員会 9月8日(木) Zoom会議の併用

各事業からの報告

- ・市民活動支援指針グループ  
補助金等検討委員会で見直す点、役所の考えを聞きたい。  
補助金は基本3年以内となっているが、ずっと貰っている団体もあり、新規団体もなく固定化されつつある。
- ・地域共生社会グループ  
地域コーディネーター養成事業、講座後どうするか先が見えない。
- ・子ども応援団グループ  
子ども応援団事業のシンポジウムの経過報告。
- ・チームつながり  
市民のチカラまつりの経過報告。

(担当幹事 山本聖)

## ★ 事務局から ★

◆会報の「みんなの掲示板」に会員団体のイベント PR や会員募集、他の会員への呼びかけなどの掲載を希望される場合は、事務局 (メール [acnw.jimukyoku@gmail.com](mailto:acnw.jimukyoku@gmail.com)) までご連絡ください。

◆アドレスご登録の会員には、この会報電子版や、イベントなどのご案内をメールでもお届けしています。  
アドレスの新規登録をご希望の会員も上記にご連絡ください。

◆各団体の役員・担当者・連絡先等に変更があった場合は、その都度、あびこ市民活動ステーションに Fax にてご連絡するようお願いいたします。

( Fax 04 7165 4370 )

◆次号は1月15日発行予定です。



あびこ市民活動ネットワークHP

# みんなの掲示板



## 緑のカーテンコンテストの結果を展示します！



地球温暖化防止推進協議会「エコライフあびこ」代表 深山 恒男



11月9日(水)～12月7日(土)の期間、水の館1階の手賀沼ステーションで「我孫子市緑のカーテンコンテスト in2022」の結果の写真展示が行われます。

今年の応募は一般部門147点、企業団体部門15点の計162点。9月29日(木)に審査会が行われ、最優秀賞などを選定しました。我孫子市地球温暖化防止推進協議会「エコライフあびこ」では平成24年から我孫子市との共催で「緑のカーテンコンテスト」を実施しています。



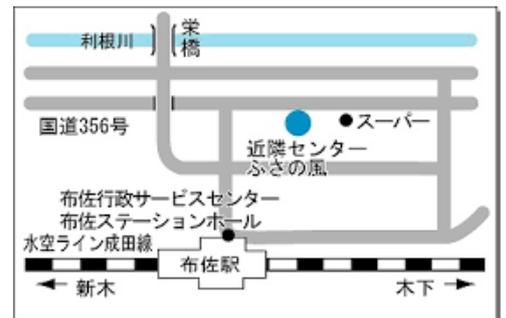
ゴーヤ等の緑のカーテンは植物の蒸散効果で部屋を涼しくし、節電に役立ち、温暖化防止になります。ぜひ楽しみながら節電に繋げてください

## あびこ市民活動ステーションからのお知らせ

### ◆◆出張市民のチカラまつり@布佐の開催◆◆

今年も布佐に出張します。テーマは「布佐の魅力発信」、ふだん訪れる機会のない方に、ぜひご来場いただければと思います。「布佐の見どころ・食べどころマップ」無料配布。

日時：11月5日(土) 10:00～15:00 会場：近隣センターふさの風  
共催：ふさの風まちづくり協議会



部屋	午前	午後
フリースペース	団体ポスター展、認定NPO法人東葛市民後見人の会説明ブース	
和室1・2	10:00～11:30 Cafe ネスト(未就園児の親5人)	①13:00～13:40②14:00～14:40 脳と身体がイキイキするスクエアステップ運動体操(65歳以上4人/回)
調理室	10:00～12:00 絵本に出てくるお菓子づくり①(小学生以上の子どもと保護者6組)	13:30～15:30 絵本に出てくるお菓子づくり②(小学生以上の子どもと保護者6組)
会議室1		気象学者・岡田武松氏の展示・説明・DVD放映
会議室2	竹内神社祭礼について知ろう(展示・説明)	
会議室3	河上さんの防災ひろば(展示・説明) 布佐平和台自治会で防災活動を重ねている河上徹夫さんより、日常生活に役立つ防災知識を学びます。	

※和室、調理室の催しは事前申込制です。あびこ市民活動ステーションまでお申込みください。電話 7165-4370  
メール [abikosks@themis.ocn.ne.jp](mailto:abikosks@themis.ocn.ne.jp)

### ～編集後記～

夕方からの編集会議は夜遅くまでかかり、なかなかまとめるのに苦労しました。だんだん頭が働かなくなり、年を感じる編集会議でございました。会報編集委員募集中!!